



信州 216

謹呈 申も 春也 暢酬

筈 定也 作は 康と

お儀も 過るや 止ら 未

非常の 運力之 恒徳

昨午 三日は 一個月 振りに

始あり 一時 同なり 馬車

之 散米 止らば 之の 儀は

禱定の 日 反に 帰朝 出来

此 幸 確かに 存心

希也、 同然に 之に 定あり

事情 亦 洋米の 事と

を 存心し、 国協 商の 無効力

志は 勿論 其 国外 亦の 抑り

却り 亦 午後 候へり 候

37

志は四海 其國外を擲る

耶ニも午後 ンルハリ候

の物も 夫れ平う外交家
トシは

申ふ事も 風雪結咆

出沒の 概ニ臨ニは如

こも 皮膚の 親クをカ

多ク 徒ラニ 強大

志 海軍と 無限の財力

ヲ 擁シ 金持喧嘩

の 一言ニ 練レル 務有

概合ツ 逸一 牛ニ 挽かれ

若光 幸ニ 昇るの 着あは

界外 舟を ちを 併し 莫

国の 奥海 漸ク 露國 到

對シ 平カ 平カ 倭 向

ツ 歩一 たり 着 可

ト 現 象 存

ツ ンカレの 事 時ニ 甘ニ 實 俾

忠 守の 事 不 妙 俾 俾

の 上は 同 際ニ 固 示

ツ 事 始 末 存

...の事...
...の事...
...の事...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

...の事は...
...の事は...
...の事は...

たれを存するに於ては、
公侯其人ノ撰擇大に
重んずるに思ふ所の如き

也、申分もあつた事
ナキ也 西洋人ニ對シテ

是の軍用には或は國
下布訓令の下に御は

若國に依りては、
御中レヨリ、善まかた

右に備置せしは、
止む事煩尊慮か

也、事未伯付去人様
御中、事煩御了、
御了

写月廿日
徳守也

大隈侯閣下